

進路のしおり

～特別号～

この冊子は、県内の肢体不自由特別支援関係校が集まり、毎年編集発行されているものです。小学部に入學し高等部を卒業するまでの12冊の冊子をご覧になって、日々の、あるいは将来の豊かな生活を送っていただくようお願いしております。コロナ禍の中、例年の構成による発行は難しい状況となりました。特別編としてこれまでの「進路のしおり」の歴史と、現在の課題となっているワードを取り上げ、過去から現在、これからの進路を考えます。参考にいただければ幸いです。



<目次>

「進路のしおり」の歴史	P. 1 ~ P. 2
特集①「切れ目のない支援体制の構築」を目指して	P. 3 ~ P. 7
特集② 医療的ケア等が必要な重度障害者の生涯教育	P. 8 ~ P.11
「進路のしおり27号」アンケート結果	P.12 ~ P.14

- 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部会肢体不自由特別支援学校小委員会
- 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会
- 埼玉県特別支援学校校長会

「進路のしおり」の歴史

～レジェンドたちの思いに馳せ、過去のテーマに学ぶ～

埼玉県立蓮田特別支援学校 進路指導主事 島村 隆博

<措置の時代>

今から30年ほど前、我々肢体不自由校の進路指導主事にとって、「レジェンド」といわれる方々がいました。養護学校(*1)は義務制(*2)になっていましたが、支援費制度(*3)の10年以上前、措置の時代(*4)でした。当時は、重度障害者の進路先がほとんどなく、「在宅」が当たり前の時代だったそうです。

<小委員会の起こり>

そんな折、「障害者に関する世界行動計画」(*5)や日本各地に広まった「自立生活運動」(*6)の影響もあり、当時の越谷養護学校、和光養護学校、大宮市立養護学校、宮代養護学校、日高養護学校、熊谷養護学校のレジェンドたちの研究会が1989年に始まりました。コンセプトとしては、「**たった1校で進路指導主事が孤軍奮闘したところで限界がある。県内の肢体不自由校が集結することで問題の解決にあたろう!**」ということだったそうです。その後、東京都の「肢体不自由養護学校進路指導研究協議会」から学び、「**肢体不自由養護学校小委員会**」として県の特設教育課からも研究活動として認められ、**1994年に「進路のしおり第1号」**の発行に至りました。

<「進路のしおり」の発行>

卒業後の進路の開拓に向け、保護者との連携は必須です。そのためには、まずは保護者への情報提供が必要。どうしたら、保護者の方々に読んでもらえるか、記事の読みやすさやインパクト等ビジュアルも工夫を重ねたそうです。以下に、第1号(①)から順番に“テーマ”を御紹介します。

～各号の“テーマ”～

- ① 先輩の生き方から学ぶ
- ② 障害の重い生徒の進路
- ③ 卒業後の生活を豊かに
- ④ 地域で生きる
＝すまい・あそび・すけっと
- ⑤ 地域で生きる
＝おかね・なかま・せいかつ
- ⑥ 社会参加をめざして
- ⑦ 親ばなれ・子ばなれ
- ⑧ 「いま」をゆたかに
- ⑨ 「いま」をゆたかにⅡ
- ⑩ 社会参加を目指してⅡ
- ⑪ 障害の重い子の進路
- ⑫ 障害の重い子の進路Ⅱ
- ⑬ 家族とともに
- ⑭ 障害者自立支援法
- ⑮ 豊かな生活
- ⑯ 新たな挑戦
- ⑰ 地域支援
- ⑱ 夢に向かって
- ⑲ ささえあつて
- ⑳ ささえあつてⅡ
- ㉑ 生涯を通じた支援
- ㉒ 自分らしさを生かして
- ㉓ 日々の生活、地域、選択
- ㉔ 新時代の支援のはじまり
- ㉕ 地域に暮らす
- ㉖ 未来につなぐ“今”
- ㉗ 時代の流れに身を寄せて

～すべての号に共通のジャンル～

「就職・進学・訓練施設」「福祉施設」「支援サ

ービス」「生活・余暇・スポーツ」「制度・システム」「施設紹介」「その他」

～気になった記事～

- ① 工場で働く（雷おこし）、県リハの生活・国リハに入所、在宅生活を積極的に（わたしのふれんず）
- ② レスパイトサービス（ファミリーサポート昴車いすと障害者基本法
- ③ 介助することされること（ボランティア）、在宅者の現状/卒業後の生活と地域
- ④ すけっと（ヘルパー、地域支援ネット）、すまい（療護施設、生活ホーム、アパート）障害者プラン
- ⑤ おかね、なかま、いどう、せいかつ障害基礎年金、権利擁護
- ⑥ 進学情報、ともに働くお店、生き生きとした活動を、あらたな動き（就労センター、生活支援センター）
- ⑦ 子育てに関するアンケート調査、社会福祉基礎構造改革
- ⑧ 遊ぶ・電車・外出・プレステ・インターネット・GLAY、一人暮らしに向けて
- ⑨ 修学旅行（東京/大阪交通事情）、新改革制度による障害者福祉の現状と課題、障害児療育の移り変わり、福祉のあゆみ
- ⑩ 自立生活、沖縄修学旅行・家族で海外旅行、支援費制度

10年ひと昔・・・発行から初めの10年分だけ見返してみました。興味を持たれた方は、巻末の小委員会所属校に27号分のバックナンバーがありますので、ご覧になってください。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大にともない、各学校及びご家庭、地域においても新しい生活様式のもと、様々な困難や残念な思いもあったことでしょう。当小委員会も、年度の前半は情報交換が思うように進まずに、27年間続いていた発行の断念を余儀なくされました。そんな中でも、高3の進路先が決まっていく各校からの報告がせめてもの救いでした。奇しくも、昨年発行の進路のしおり第27号のテーマは“時代の流れ

に身を寄せて”でした。「身を任せて」ではありません。時代は絶えず変化していきます。ただ流されるのではなく、また逆らうのでもなく、新しい情報を取り入れながらも足元をしっかりと見て、少しでも前に進んでいきたいものです。

最後になりますが、あるレジェンドの言葉を紹介し、ペンを置きたいと思います。

「“自立”とは、独り立ちのことではない！人生の主人公として豊かに生きること。あれができない、これができないという負の評価ではない。障害を障害たらしめているのは、社会の問題である。」

<用語解説>

(*1) 盲学校・聾学校・養護学校は、**特殊教育**諸学校と称されていたが、2007年に文科省「特別支援教育の推進について（通知）」により、特別支援学校に一本化され、障害の種類によらず、一人一人の特別な教育的ニーズにこたえていくという**特別支援教育**の理念が打ち出された。

(*2) **義務制**になったのは、1979年。それまでは、盲学校・聾学校については1890年、養護学校は1956年に設置されるようになったものの、**就学猶予・就学免除**ということで、重度の障害児の入学が難しい時代であった。

(*3) (*4) 2003年に施行された。それまでは、「**措置制度**」とあって、自治体が審査をもとに福祉サービス利用の可否や利用先を決定していた。その後、利用者の意向が尊重されるようになったが、サービスの格差や財源問題が指摘され、2007年に、現在の**障害者総合支援法**の前身である「**障害者自立支援法**」に移行された。

(*5) 「**国際障害者年**」の成果をもとに国連総会で決議、1982-92年までを「**国連・障害者の10年**」と宣言し、各国が課題解決に計画的に取り組んだ。

(*6) 1960年代にアメリカのバークレイ(**肢体不自由の聖地**)で始まった。重度障害者が社会の中で、慈善や温情に基づく保護対象ではなく、自から主体性をもって社会参加を実現していこうという運動。その後「**自立生活センター(CIL)**」として日本でも広まり、2014年には、全国130か所を数えるに至っている。

「切れ目のない支援体制の構築」を目指して

越谷特別支援学校 進路指導主事 杉田 聡

はじめに

本校は今年度から国立リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター 教育・福祉連携推進官の畠山和也先生と連携して、「家庭・教育・福祉の連携推進の取組」を進めています。

国が進める家庭・教育・福祉の連携「トライアングル」プロジェクトの推進が一層進むことを目指し、本校において、①引継ぎ会議、②支援会議、③相互理解のための合同研修等を試行的に取り組んでいます。また、相談支援事業所や放課後等デイサービス事業所と連携・協働をする取組を進めている状況です。

1. 今年度の取組

本校では、まず「家庭・教育・福祉の連携推進の取組」についての理解を深め推進を図るため、教職員全体での研修を行いました。研修の中では、教育と福祉の連携について、引継ぎ会議（縦の連携）と支援会議（横の連携）の観点からアプローチをする必要性を学びました。そこで、これまで行ってきた取組を基にして、福祉（児童発達支援センターや相談支援事業所、放課後等デイサービス）との連携を深められるよう、事例検討を行いました。

本校のこれまでの取り組み

①就学前の就学前施設、前籍校との引継ぎ

（児童発達支援センター、児童発達支援事業所、幼稚園、保育園、認定こども園など）

②入学・転学後の就学前施設、前籍校との引継ぎ

③児童生徒の困難さを改善するため、福祉と連携が必要と判断した場合適宜ケース会議

④高等部3年次には、市町村のケースワーカーや相談支援員が参加する五者面談

⑤卒業時には進路先となる事業所と移行支援会議、定着支援

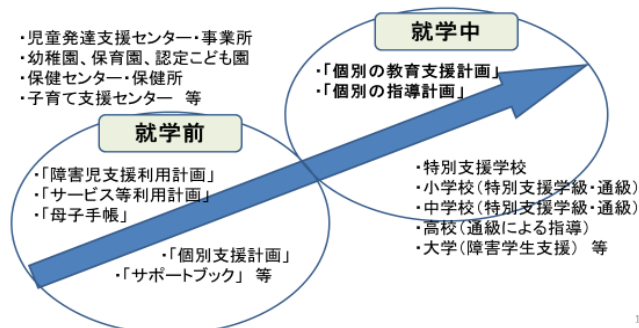
今年度は①と②を整理することを中心に進め、他の取組にも反映できるよう行いました。②の就学前施設との引継ぎでは、これまで学校と就学前施設の2者で行い、保護者への配慮や家庭支援の有無について情報交換をしていました。今年度は新たな取組として参加対象を広げ、保護者、就学前施設、相談支援事業所、学校、放課後等デイサービスの5者で、事例児童生徒5名、計6回の引継ぎ会議を行いました。

また、①の就学前の引継ぎ会議についても、これまで学校と就学前施設の2者で会議をしていましたが、次年度からは保護者、就学前施設、相談支援事業所、学校、児童発達支援の5者に広げて実施する予定です。

◎就学前に行っていた支援内容が就学後もしっかりと継続して受けられるよう、これまでの引継ぎから、参加対象を広げることで、より多面的に情報交換を促せる引継ぎ会議となりました。また、今まで以上に就学後の支援内容の参考とすることができ、個別の教育支援計画や個別の指導計画に反映させることができました（右図を参照）。

連携推進のための取組提案

①切れ目のない支援のための「引継ぎ会議」



16

2. 成果

今年度、本取組を行うことで、これまでとこれからの福祉との連携について整理をすることができました。これまでの連携では、主に学校に通うために必要な情報収集、障害特性や健康面、医療的ケアの状況、服薬や発作の有無等の共有を行ってきました。引継ぎ会議への参加対象を広げたことで、さらに児童の今までの学び（就学前）の中での成長、認知発達を中心に、個に応じた指導・支援に生かすことができる情報収集ができるようになりました。また、関係者が集まり情報交換を行うことで、就学前から卒業後までの系統的で一貫性のある取組について意識を高めることができました。

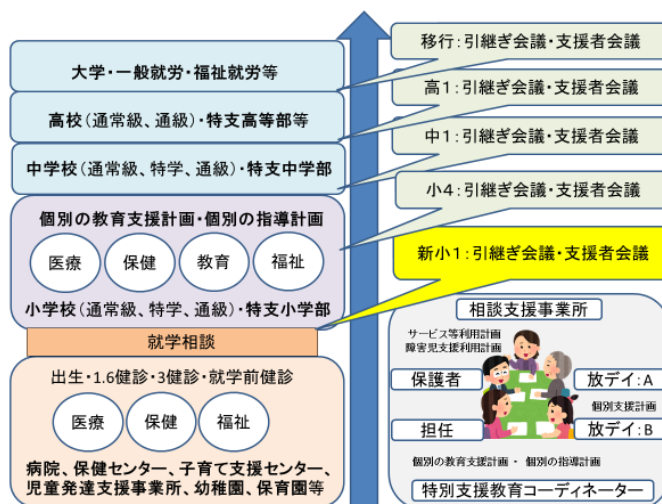
3. 課題と今後の展望

今後も引継ぎ会議や支援会議を通して家庭と教育と福祉の連携の在り方を見出すとともに、その成果と課題を整理し、地域の小・中学校や他の特別支援学校に広めていくことが求められます。その実現に向けた課題と今後の展望として3つあります。

まず主催者を明確にして、組織的な体制を整えることです。S市では、相談支援事業所が支援会議を主催してくれますが、現状、市町村で対応が異なりますので、体制が整うまでは学校がリードをすることが必要となります。

次に、学校で作成している個別の教育支援計画及び個別の指導計画と福祉で作成している障害児支援利用計画、サービス等利用計画及び個別支援計画の目標や有効な支援に関する情報が共有されることです。切れ目のない支援体制を構築するためには、関係機関の各担当者が一同に介して情報を共有し、それぞれの役割分担を明確にして連携をすることが今後もより一層に求められます。

最後に進路指導と福祉との連携です。現在は就学前から就学に至る引継ぎ会議や在学時の定期的な支援会議の取組を進めていますが、今後は高等部卒業時の移行支援会議や定着支援の体制を整理することで、卒業後の生徒一人一人の豊かで自分らしい生活へと導いていけるのではないかと考えています。



4. 畠山先生のコメント

越谷特別支援学校は、トライアングルプロジェクト報告（H30.3）が出された年の夏にはK市の障害福祉課の方を講師として招聘し、教職員に対して福祉制度及び具体的な障害福祉サービスについての研修会を実施しています。さらに令和元年度には、福祉SOSゲーム（S市オリジナルの福祉資源利活用のための理解啓発ゲーム）を使った演習も取り入れた全校研修会も実施しています。また、令和2年度には、サービス担当者会議やモニタリングを兼ねた支援会議も試行的に2事例実施しています。コロナ禍の現状では、集合型の研修会や会議等は難しくなっていますが、個人情報の保護に留意しつつ、オンライン会議システムを積極的に活用するなどして、他の特別支援学校や小・中学校、高等学校へも福祉に関する研修会、引継ぎ会議や支援会議の取組が広がっていくことを切に願っております。

昨年の12月に、文部科学省において中央教育審議会（答申）へ提言される「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」報告（案）がまとめられました。その第5章「関係機関の連携強化による切れ目ない支援の充実」の中から、前項「3. 課題と今後の展望」に係る取組の参考になる箇所を紹介いたします。

【在学中の連携について（一部抜粋）】

○特別支援学校におけるキャリア教育では、学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すことが重要である。そのため、早期からのキャリア教育では、保護者や身近な教師以外の大人とのコミュニケーションの機会や、自己肯定感を高める経験、産業構造や進路を巡る環境の変化等の現代社会に即した情報等について理解を促すような活動が自己のキャリア発達を促すうえで重要であることから、その実施に当たっては、地域の就労関係機関との連携等による機会の確保の充実が必要である。また、就労に際して、本人の自己選択・自己決定を尊重する等の機会を確保したり、学校卒業後の生活に向けて、福祉制度の理解を深める機会を確保したりすることが重要である。

○特別支援学校高等部や高等学校に在籍する発達障害等のある生徒に、在学中から、自分の得意なことや苦手なことなどの自己理解を促し、その対処法を学びながら自信を高めるような指導や支援の充実が必要である。また、卒業後の進路先に、必要な配慮の提供、環境整備についての情報が引き継がれるように、関係機関との連携促進も求められる。

このように、キャリア教育等の指導の際に関係機関と連携する必要性について述べられています。これらは特別支援学校学習指導要領中学部「職業・家庭」や高等部「職業」の目標及び内容にも示されていますので、自立活動の指導と合わせて日々の教育活動の中で取り組んでいくことが大切です。

【卒業後の連携について（一部抜粋）】

○特別支援学校高等部卒業後に就労する者の割合や就労系障害福祉サービスへ進む者の割合は増加しており、就労系障害福祉サービスから企業への就職に移行する者の数も増加するなど、障害者雇用は着実に進展している。今後、就職後の定着を図るため、関係機関・関係者間で必要な配慮等の確実な引継ぎがなされるよう、教育における個別の教育支援計画と、福祉におけるサービスの利用計画や事業所の個別支援計画、労働における移行支援計画とが一体的に情報提供や情報共有ができるような仕組みの検討が必要である。

○現状、特別支援学校等の教員が、卒業後も一定期間支援を行っている場合があるが、これが学校や教員の負担になる場合もあることから、今後はより一層、特別支援学校、企業、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター等の関係機関と連携した就職時及び就職後のアフターケアなどの就労支援の充実が必要であり、そのためには、卒業時の移行支援や卒業後の就労支援における特別支援学校と関係機関との役割や連携の在り方などの検討が必要である。

進路指導に関する家庭と教育と福祉の連携については、現場を支える教員や福祉支援者等の顔と顔のつながる関係性を基盤としながら、担当者が異動しても維持・継続するような支援体制の構築が必要であると考えます。

これら国の動向も踏まえ、現在の取組に新たな発想を取り入れて地域の実態に応じた連携の文化を創造していくことを期待しております。社会に開かれた教育課程の実現を図るためには、児童生徒が地域の中で学び・働き・生活することを見据え、（学校だけで抱え込むことなく、）地域の他機関・多職種との連携の下、地域の中で育てていくことが求められます。そのためにも、教員一人一人が福祉について学び、理解を深めた上で保護者や福祉支援者と連携し、地域に根差した連携の文化を醸成していくことが大切だと思います。

「切れ目のない支援体制の構築」を目指して ～さいたま市岩槻区の取組～

さくら草特別支援学校 進路指導主事 千々和 一億

埼玉県内の多くの行政や福祉現場の方々が、「切れ目のない支援」のためのネットワークづくりを工夫されています。さいたま市では、区ごとに、そのような取組をするところが増えてきています。その中でもいち早く動き始めた岩槻区の取組について紹介させていただきます。

『岩槻区顔の見えるネットワーク会議』

☆歴史

平成21年度～「情報交換や困ったことを言い合える中で、顔の見える関係を作れる場」を作ろうと、社会福祉事業団・作業所々長等の有志で発足しました。

平成24年度～ 障害者生活支援センターささぼしが主催となり、区支援課と相談しながら運営。

区内事業所、医療、教育、高齢分野等の参加と広がりました。

平成26年度～ 岩槻区支援課主催、運営協力ささぼしとなりました。

区長マニフェストにも掲げられ、区としての取組が始まりました。

☆内容

テーマを設定しての講演とその後のグループディスカッションを実施しています。

・過去の講演例

「ネットワークの先進事例に学ぶ ～埼玉北自立支援協議会の取組～」

「障害児者の命と権利を守る支援ネットワークのあり方について」

「地域における障害のある人を支えるネットワークづくり

～さいたま市ノーマライゼーション条約の取組を通じて～」

「地域の防犯・防災のネットワークづくりを考える

～障害のある人を犯罪被害から守るために～」

テーマは権利擁護・地域連携・防災・障害の理解を中心に、多岐にわたる。

☆参加者

区内事業所、県内特別支援学校、区内小学校、地域包括支援センター(※1)、法テラス(※2)、消防署など多方面の方々が参加されています。

普段あまり出会うことの無い職種の方々と情報交換をすることができるプラットフォームになっています。

「さいたま市岩槻区障害者生活支援センターささぼし 長岡明美センター長」のお話し

岩槻区顔の見えるネットワーク会議は、自分たちの地域を誰にとっても暮らしやすいまちにするために、いろいろな人に参加していただき話し合いをしています。回を重ねながら、お互いに少しずつ敷居が低くなり、顔が見えて近くなり、何かを生み出すきっかけづくりの場になっているのかなと思っています。

障害がある人の支援では、福祉のサービスができることはほんの一部です。いつもそばにいるご家族はもちろん、隣近所の方、よく利用するコンビニなど、いろいろな人や地域とのつながりが一番の生活の土台です。地域のインフォーマルな人や資源とどうつながるかも、今後の課題です。

また、さいたま市では顔の見えるネットワーク会議での貴重なご意見を区ごとの「地域部会」で集約して、自立支援協議会という、障害のある人の福祉をよくするための会議にあげる仕組みを作っているところです。勉強をするだけでなく、地域をよくすることもできる！いいことづくめの会議です。新型コロナウイルスの流行で、現在はオンラインによる会議に切り替えて実施をしています。

今後もより一層、多くの方々にご参加いただけますよう、お願いいたします。

※1: 高齢者の暮らしを地域でサポートするための拠点として、自治体などによって設置されている機関。

※2: 日本司法支援センター。国民全員が法的トラブルの解決に必要な情報やサービスの提供を受けられるようにするため設立された法務省管轄の公的な法人。

私たち進路の担当者も、「切れ目のない支援」の構築、そして、その支援のさらなる充実を目指し、日々活動を続けていきたいと考えています。

医療的ケア等が必要な重度障害者の生涯教育

埼玉県立宮代特別支援学校 進路指導主事 堀 喜代司

令和2年11月13日「医療的ケア児者の生涯教育を推進するフォーラム」（以下フォーラムと表記、フォーラムとは公開討論会）が開催されました。当日は会場（国立オリンピックセンター）での参加者に加え、Zoomでの参加も可能でした。本校もZoomで参加させていただきました。

そもそも、フォーラムとして取り上げられ話題になるのは、現状や実践についてより多くの方に知っていただきたい、そして現存する組織団体をもつ課題について共に考えていただきたい、そんな思いが主催側にあるのではないのでしょうか。その辺りを読者の皆様にお伝えできればと思います。

今回のフォーラムの内容は文部科学省（以下文科省と表記）HPで公開されているように、文科省が「医療的ケアが必要な重度障害者の学校卒業後の学びの場」に問題意識をもち、フォーラムを主催しています。問題意識の根拠は、教育基本法 生涯教育の理念 第3条に「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られなければならない」とありますが、現状では十分に整備されていないことです。

【文科省傘下の有識者会議最終報告】では以下のように結論付けています。

「学校卒業後の障害者の学びの場が十分でない」

◆目指す方向性

- 誰もが、障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる共生社会の実現
- 障害者の主体的な学びの重視、個性や得意分野を生かした社会参加の実現

◆取り組むべき施策

- 国、地方公共団体、特別支援学校、大学、民間団体が役割を分担し、多様な学びの場づくりを推進
- 教育、福祉、労働等の分野の取り組みと連携の強化が重要

（１）現状や実践について

訪問型の保育・療育・教育について3つの発達段階で整理すると下表のようになります。

発達段階	運営主体	実施形態	実施年度
就学前	地方公共団体からの委託事業所	居宅訪問型保育	平成27年度～
	地方公共団体からの委託事業所	居宅訪問型児童発達支援	平成30年度～
学齢期	特別支援学校	訪問教育	昭和54年度～
	地方公共団体からの委託事業所	居宅訪問型児童発達支援	平成30年度～
学校卒業後	地方公共団体	訪問型生涯教育	昭和56年度～
	民間	訪問型生涯学習	平成22年度～

学校卒業後の訪問型生涯教育事業を予算化できている地方公共団体は日野市だけで、その取り組みの歴史は長い。日野市の訪問型生涯教育を参考に、訪問カレッジ@希林館が民間で最初に訪問型生涯教育事業を開始しました。地方公共団体等に予算化していただくためには、多くの市民の声が必要です。

次に4つの民間事業所の具体的な実践内容や成果等を紹介します。

【ひまわり HomeCollege】

特別支援学校などを卒業後、障害や病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の方のご自宅を講師が訪問し、生涯教育を支援します。卒業後も学ぶ機会を持ち続けて地域や社会との接点を持ち、豊かな人間関係を築き、充実した時間を過ごすことを目標にします。

対象は ①新宿区在住の18歳以上の方 ②身体に障害があり通所施設の利用が難しい方 ③学習の機会を通して社会参加を希望する方 で講師は、特別支援学校や福祉施設等で勤務経験があり、障害や病気に関する知識と理解がある方を派遣します。コーディネーターが希望の学習内容に応じて講師を選び、学習者、講師、コーディネーターの3名で相談の上、具体的なカリキュラムを組んで授業を進めます。

【訪問大学おおきなき】

＜授業内容の紹介＞

- ・国語（絵本の読み聞かせ、俳句等）、英語
 - ・音楽、音楽療法（楽器演奏、音楽鑑賞等）
 - ・スイッチ学習、視線入力装置
 - ・創作、絵画、調理
 - ・感覚活動
 - ・iPad アプリを使った活動
 - ・動画視聴、制作活動
 - ・身体の取り組み
 - ・社会体験やコミュニケーション 等
- *大学と呼んでいるが、授業を自由に選択できるわけではありません。
- *通常の大学のように免許や資格を取得することを目的としていません。

＜利用している学生さんの紹介＞

- ★1～4年生：6名
（20代4名、30代1名、50代1名）
- ・気管切開4名、胃ろう5名、人工呼吸器4名（酸素療法3名）
 - ・通所回数 月0～1回：4名
週4～5回：2名
- ★生涯学習コース：4名（20代4名）
- ・気管切開3名、胃ろう2名、人工呼吸器2名（酸素療法1名）
- 「訪問大学おおきなき」は1年生→2年生→3年生→4年生と4年間の階段を上がっていくイメージです。4年間で卒業の達成感を味わえるようにしています。卒業後も学習を継続したい方は、生涯学習コースが設けられていますが、授業回数が減る可能性もあるようです。

【訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学】

＜訪問スタッフの紹介＞

- 特別支援学校や福祉施設での勤務経験者、障害や病気に関する知識、理解がある方
- ・本学学生 5名
 - ・理学療法士 1名
 - ・寄宿舍指導員1名
 - ・保育士 2名
 - ・県のシニア人材派遣部署の紹介 6名 等

＜令和元年度実施期間や実施回数の紹介＞

- 実施期間 令和元年11月～令和2年2月
- 実施回数
- ・1カ月に1～4回まで
 - ・平日または土曜日
 - ・10～17時までの間の2時間

【訪問カレッジ@希林館】

＜9年間の成果の紹介＞

- ①学校時代に身につけたことをゆっくりと、自分のペースで時間をかけてその人らしく育てています。
- ②何歳になってもゆっくりではありますが、成長・発達し続けています。
- ③授業が始まると、学校時代に蓄積した力を発揮し、顔が輝き、笑顔いっぱいになります。
- ④週1回の訪問であっても、その日を心待ちにし、生活リズムを整えています。
- ⑤筋緊張や拘縮を予防する、身体の取り組みが必須です。
- ⑥生命と向き合い、その力を精一杯発揮できる「時」はかけがえのないものです。
- ⑦学習支援員にとっても、生涯教育の機会となっています。

(2) 重度障害者に対する訪問型生涯学習の取組団体一覧と運営上の課題について

(令和2年9月9日現在) 敬称略

	事業名	事業者名	法人等の 代表者名	事業 代表者名	事務局 所在地
①	訪問カレッジ@希林館	NPO 法人 地域さぼーと研究所	飯野 順子	下川 和洋	東京都 小平市
②	訪問大学おおきなき	NPO 法人 訪問大学おおきなき	相澤 純一		東京都 大田区
③	ひまわり Home College	NPO 法人 ひまわり Project Team	藤原 千里	寺嶋 有仁子	東京都 新宿区
④	訪問事業 i.porte (あいぼると)	NPO 法人 あいけあ	岡安 玲		神奈川県 川崎市
⑤	訪問療育いるか	NPO 法人 かすみ草	早野 節子	栗山 弘子	東京都 杉並区
⑥	訪問カレッジ Enjoy かながわ	NPO 法人フュージョンかながわ ・県肢体不自由児協会	成田 裕子		神奈川県 横浜市
⑦	訪問カレッジ静岡	静岡県障害者就労研究会	瀬戸脇 正勝		静岡県 静岡市
⑧	日野市障害者訪問学級	日野市障害者問題を考える会	名取 潮子	大石 恒子	東京都 日野市
⑨	在宅訪問学習支援事業 「SHJ 学びサポート」	認定 NPO 法人 スマイルン ホピタル ジャパン	松本 恵里	松本 健太郎	東京都 杉並区
⑩	みんなの大学校	一般社団法人 みんなの大学校	引地 達也		東京都 国分寺市
⑪	訪問カレッジ・オープン カレッジ@愛媛大学	国立大学法人 愛媛大学	大橋 裕一	苅田 和則	愛媛県 松山市

現存する組織団体の課題は大きく次の2点です。

① 講師、スタッフの不足

- ・学生と同世代の講師の力が、学習意欲向上のために必要です。
- ・近隣の大学の協力がもっと必要です。
- ・地域には専門性のある方、特技等をお持ちの方がいます。

② 事業継続のための資金の不足

- ・収入は学生（利用者）からの年会費と寄付金、支出は講師への謝金や交通費、損害賠償保険、その他事務所経費等があり、赤字を出しています。
- ・運営していくためには国や地方公共団体等の補助金が必要です。

(3) 利用されている学生の声やご家族の声

① 「訪問カレッジ@希林館」 利用者

<学生の声> 私は一昨年肺炎になって気管切開をしました。それで声を失いました。絶望のどん底に落ちてしまいました。その時、元担任の先生から声をかけてもらって「訪問カレッジ@希林館」に入りました。家庭でできる余暇の過ごし方を教えてくれます。また身体のケアも同時に行ってくれます。さだまさしが大好きな私のためにギターを弾いて歌ってくださり、その時間はウキウキします。iPad を使って

のゲームや情報を色々勉強させてもらっています。普段は身体がきつくて辛いのですが、訪問カレッジの時間は楽しくて痛みを忘れて夢中になっています。私の命が続く限り入ってみたいです。

＜ご家族の声＞ 作品作りでは、温かい、冷たい、重い、ふわふわ、ねばねばなど初めての感触もたくさんありました。作品が一つ仕上がるたび、満足そうな笑顔と、次への期待が表情でわかります。また、友だちや訪問看護師、ヘルパーさんに作品をほめられてとても嬉しそうにしています。学習時の集中力とエネルギーには驚いています。本の読み聞かせでは、言葉の面白さや新しい「学び」もたくさんあり、授業のエンディングとしてゆったりした時間を過ごし、創作の時間とは違った表情を見せてくれます。

今、息子にとって訪問カレッジは生活の一部となり、元気に授業を受けることが目標になりました。そして、新しいことへの興味、チャレンジは、「生きる力」となっています。

②「訪問大学おおきなき」 利用者

＜学生の声＞うた、たのしい。料理続けたい。英語もしたい。電車で所沢です。（電車に乗りたい）

＜ご家族の声＞

・成人となり出会いが少なくなるばかりと思っていましたが、おおきなきの仲間に入れていただき、息子の世界が一気に開けたように感じます。（2年生）

・初めての経験をいろいろさせていただいて、息子の笑顔や真剣な顔など、寝たきりの時とは違い以前のような活気が出てきて、先生が来てくださる日をとても楽しみにしています。（生涯学習コース2年生）

・視線入力装置との最初の出会いは、特別支援学校在学中でした。その時は目を上手に動かさず画面の一部分を往復するだけで、すぐに諦めてしまいました。画期的な最新機器も、この子には使えないと思い込んでしまっていたので、訪問大学で再び視線入力装置に出会った当初は、親としてあまり期待しないようにしておりました。しかし、先生の熱心なご指導のおかげで回を重ねていく度に目の動く範囲が広がり、今では自分の選んだ色で画面いっぱいに描けるようになりました。すぐに諦めてしまい長続きしなかった子が、視線入力の授業では1時間以上集中して取り組めるようになり、その成長に驚いております。（生涯学習コース3年生）

・今までは娘の気持ちは家族にしか分からないと思っていたのですが、諦めずに聞いてくださる先生方に応える姿があり感動しました。体が不安なため、あまり外出していなかったのですが、トーキングエイドでしっかりと切実に外出がしたいと伝えてきたことで、思い切って外出することができました。また、お化粧品や着替えもしたかったのだと伝えてくれ驚きました。21歳の女性の生活をさせようと反省しました。帝京大学の学生さんが来てくださったときも「友達♡友達♡」でずっとハイテンションでした。姉妹だけでなく同世代の人たちとの交流も必要と感じました。（卒業生、2018年に旅立つ）

③「ひまわり HomeCollege」 利用者

＜ご家族の声＞ ほとんどの通所施設で「対応できない」と断られてしまいます。そうになると医療的ケアが多く外出が困難な在宅療養者は、家族とわずかな医療・介護関係者としか接点のない、単調な生活を余儀なくされます。訪問型の生涯学習は、そんな在宅の子どもたちにとって貴重な社会体験の機会を提供してくれます。行政には、この素敵なシステムが途切れず継続できるようにしてほしい。

ご本人やご家族の声から、訪問型生涯教育が果たしている役割や重要性がよく理解できます。反面、現存する実施団体は、継続するための支援スタッフ不足と資金不足という課題に直面しています。今後、訪問型生涯教育を希望される方は増加します。支援スタッフの増員、資金確保等の整備が必要と考えられます。個々バラバラではなく、一致団結して地方公共団体等に声をあげていくことが大切です。

「進路のしおり27号」アンケート結果について

令和2年3月に配布した「進路のしおり27号」のアンケートの集計結果について取り扱ってみました。紙面の都合上、全てを網羅しているわけではありませんが、できるかぎり集約させていただきました。次年度以降、アンケート内容を可能な範囲で取り入れ、作成していきたいと考えています。

《 1 「進路のしおり27号」で参考になった記事はありましたか 》

施設の情報

- 施設運営の厳しさを語る記述が多い。
- 具体的に施設の内容が掲載されており、施設によってずいぶん内容が異なることがわかりました。
- 埼玉県障害者交流センター、すずらんキッズ、ゆずり葉さんの情報がのってよかった。
- 県内の事業所を知ることができた。
- 秩父正峰会の荒川園におけるディサービスで入浴サービスがあり、ニーズが非常に高いと思います。
- グループホーム「ねいる」の記事を見て、少しずつでも将来に向けて考えていかなければと思いました。

親なきあと

- 「親なきあと」を読み、厳しい現実を知り真剣に考えるきっかけにしたいと思います。
- 自分たちは元気ですが必ずやってくる日に備えて準備が大切だと感じた。
- 親がいなくなった後の生活の拠点であると気付かされた。
- 施設側からの実際に起こっている、親なきあとの現実は、考えていた以上にもっと明確にしておかないと、我が子が一番大変な思いをするのだと、改めて考えさせられました。
- 「親なきあとを考える」は、まだ先のことではあるけれど、今から意識をして行動していかなければならないと思いました。

表紙の「絵」に感動しました。心が洗われるような絵を描く趣味があるというのは、生きるうえでとても励みになると思いました。

「ゆずり葉」の**異業種連携とマッチング**という記事が目にとまりました。無限の可能性があると思います。何に適しているのか探すことは、難しいことですが。どこの事業所でも取り入れられたら嬉しいですね。

ポッチャの記事。スポーツが本人の世界を大きく広げてくれることを最近体験している。スポーツに限らず、人、社会との関わりの中にしぜん楽しみながら出ていくことができる余暇活動の大切さを知りました。

共生型生活介護がもっと拡大し、利用できる施設が増えて欲しい。

卒業後の進路状況、参考になりました。
卒業後の生活について。働き方、生活する場所などが参考になりました。

株式会社 HANA 等、**見学してみたい**と思いました。

最終ページに「用語解説」もあり子供もわかりやすかったようです。



《2 このパンフレットをきっかけに、ご家庭で進路について話し合いましたか》

卒業後 将来

- 自分の子供は将来、どのように生活していけば良いか。またそれには何を準備しておけばよいか。
- 子供の将来と親のかかわりについて。
- どんな進路がわが子に合うのか。
- 卒業後、どんな仕事ができるようになるのか、それに向かって日々の生活を充実したものにしていきたい。

見学 情報収集

- 近くの施設へ見学に行けるうちに、どんどん行ってこようと話し合った。お仕事のこと、知りたいこと、たくさん見ていけるといいな、と思います。
- 小学部のうちから入所施設、グループホーム、生活介護事業所などの見学に行った方がよいという話ができた。
- このような情報を少しずつ集めていきたい。

自立

- 早いうちに自立できるよう（目標こどもが30歳）、なんとか道をつけておくようにしておこうと話し合った。
- 子供にとっての自立について。
- 家族以外の誰からの支援も素直に受けることを身につけること。
- これから具体的なことを考えないと時間が足りないかもしれない。どこに就職できるか、そのために何が必要か。

- 親なきあとについて。親がいなくなった時のためにどんな準備をした方がいいのか。
- **いざという時**のために、子供の養育歴、連絡先等、家族のだれもがわかるようにしていきたい。今までのことをまとめていかなければと強く思った。

- **障がいがあっても**何かできることがあるのではないかと話し合った。

- 自分の子供が行けるところ、行かせてあげたいところ、安心して過ごせる場所がみつけれられるといいな。**期待と不安**がありますね。



- まだ先と思いつつ、**現実の厳しさ**について話し合った。

- まだ私たちは40代と若いですが、いずれは年取り、介護が行き届かなくなるだろうから、この行く末、暮らしを誰かにお願いをすることが必要で、**グループホームなども**見つけなくてはいけないこと。

- **施設**では**家庭**と同じことを求められない。

《 3 今後、「進路のしおり」にはどのような情報があればよいと思いますか 》

- 新施設情報。
- 医療的ケアの有無、放課後デイ、短期入所、生活介護、入浴サービス、GHなどの施設紹介。対象者（車いすの有無、医ケアなど）

- 卒業前にしておいたほうがよいこと。
- 「今何をすべきかを」「それが〇〇につながる」というところを段階的に知りたい。

- 子供の将来の選択肢を検討できるような記事。

- 様々なサークル、ワークショップ、勉強会などの活動を知りたい。親子体操、プール、料理教室など。

- 卒業生の活躍ぶり、生活の様子など。重度、軽度さまざまな方々の。障害をもちながらも社会で活躍している方の様子。学校でどう過ごしてきたか。
- 先輩親子の体験記。 • 進行性の子どもたちの進路先。

- どんな子が、どんな所にすすみ、良かったのか、悪かったのか。家族の意見もあると良い。施設利用者の意見、親の意見、困っていること。

- 通所介護、生活介護、A型、B型、など用語がわからない。また、それぞれの特徴、メリット、デメリット、どういう人にむいているかどうか。

- 18才になる時の色々な手続きなどの情報。意思決定やお金（年金など）のこと。

- 親なきあとが一番気になる。親なきあと子供がどうなっているの

- 受け入れる側の施設の声。
- 施設代表者同士の座談会、対談など。

- 親なきあとの施設のことや、高校卒業後、就労できない障害の程度の子の過ごし方のこと、の情報はもっとたくさん欲しい。

- より生きやすい世の中にするための具体的な方法、国政に声を届ける方法をアドバイスしてほしい。

- 後見人をつける方法を知りたい。



担当：白鳥 高橋

埼玉県内肢体不自由特別支援学校12校

高等部卒業生の進路状況

項目・年度	H29	H30	R1
企業就労	5	3	1
職業訓練機関	0	1	1
訓練等給付	10	14	15
介護給付	67	69	86
地活等	1	1	1
進学	3	8	1
在宅	5	4	8
計	91	100	113

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため学校教育は大きく影響を受けました。学校は臨時休業、分散登校など例年通りの行事等を実施することが困難な状況でした。また、現場実習も時期や実施方法など大きな制約がありました。その中、先生方が工夫し生徒の希望進路実現に向けて御尽力くださったことに深く感謝申し上げます。

この「進路のしおり」は肢体不自由を専門とする特別支援学校の進路指導主事が集まり発行しました。毎号様々な分野・領域より寄稿いただいています。今年度は、コロナ禍において限られた環境の中、内容を厳選しての編集となりました。これまでの歴史を振り返るとともに、現在の進路課題について考えるきっかけとなる内容となります。ご家庭におかれましても将来の進路先を考える機会としてお役立ていただければ幸いです。

(川島ひばりが丘特別支援学校長 堀口 真史)

今年度は、コロナ禍において事業所・企業様への訪問や会議の設定等に制約があり、例年のボリュームでの発行は難しい状況となりました。その中で進路を考える上で有効となる情報を検討し、特別号として発行できることとなりました。進路に関する歩みの一助となれば幸いです。

なお、記事に対するご意見、お問い合わせ等がございましたら、右記にある各校の編集委員までご連絡ください。

(編集委員 風間 順)

[職業訓練機関]国立職業リハビリテーションセンター、東京障害者職業能力開発校など
[訓練等給付]就労移行、就労継続A、B型、自立訓練(機能・生活訓練)などの日中活動
[介護給付]生活介護、療養介護の日中活動や施設入所
[地域活動支援センター(地活)等]身障害者地域ディケア施設も含む

「進路のしおり」特別号

発行日 2021年3月15日

<編集・発行>

◇埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部会
肢体不自由特別支援学校小委員会

◇埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会
高橋 盛也 県立和光特別支援学校

048-465-9770

堀 喜代司 県立宮代特別支援学校

0480-35-2432

榊原 徹 県立日高特別支援学校

042-985-4391

風間 順 県立川島ひばりが丘特別支援学校

049-297-7753

大沢 恵子 県立熊谷特別支援学校

048-532-3689

佐藤 勉 県立秩父特別支援学校

0494-24-1361

杉田 聡 県立越谷特別支援学校

048-975-2111

白鳥 武彦 さいたま市立ひまわり特別支援学校

048-622-5631

倉持 通子 富士見市立富士見特別支援学校

049-253-2820

島村 隆博 県立蓮田特別支援学校

048-769-3191

古谷 匡 県立所沢おおぞら特別支援学校

04-2951-1102

千々和一億 さいたま市立さくら草特別支援学校

048-712-0395

<印刷>



埼玉県社会福祉事業団

あさか向陽園

〒351-0016 埼玉県朝霞市青葉台 1-10-6

TEL 048-466-1411 FAX 048-467-4127